病院の特性に合わせた支援

大阪医療センターの増田看護師長は、退院支援看護の第一人者といわれている宇都宮宏子さんの“退院支援は看護そのもの”という言葉を大切にしています。退院後の生活まで見据えた看護が、看護師の役割だと考えているのです。また、退院支援によって地域に帰ってもらい、何かあればすぐに対応できる体制を提供することが急性期病院の役割だと教えてくれました。

一方、南九州病院の首藤副看護部長は、「慢性期中心の病院なので、退院後に通院している患者さんを院内で見かけることも多く、地域に密着した息の長い支援であることが当院の特徴です」と話してくれました。南九州病院には神経・筋難病や緩和ケアの病棟もあるので、社会サービスを最大限に生かした支援（P09−10参照）や、人生の最期をどこで迎えるべきかという問題とも正面から向き合った支援が必要です。

こうした退院支援看護師を中心とした支援が、NHOの病院では日々行われています。

大阪医療センターで退院支援に使用されているマニュアルや案内パンフ

大阪医療センター（大阪市）
許可病床数694床

近畿地方のNHOを代表する拠点の一つ。三大疾患（がん・心臓病・脳卒中）をはじめとする、広い領域の疾患を扱う高度総合医療施設。AIDS（エイズ）やC型肝炎などの感染症、高度救急救命医療、災害医療の拠点でもある。

大阪医療センターの東隣に広がる難波宮跡公園。飛鳥時代と奈良時代の一時期に宮殿が置かれ、その跡地が広大な公園として緑地化されている。

南九州病院（鹿児島県姶良市）
許可病床数475床

重症心身障がい児（者）医療や神経・筋難病などの慢性期疾患を対象とする治療と療養に長い実績を持つ。地域のニーズに応じて急性期や亜急性の疾患にも対応し、特に呼吸器領域では県内を代表する集学的医療を提供している。

南九州病院の緩和ケア病棟庭先からの眺め。南九州病院は鹿児島湾に面しており、湾を挟んで県民の誇りである桜島が一望できる。

スペシャリストの素顔

現場で活躍するさまざまな職種をご紹介します。

退院支援看護師

入院前から退院後の生活まで、患者さんやご家族が安心して過ごせるよう、看護業務の一部として経済的・心理的・社会的に支援する専門の看護師。特定の資格ではなく、退院支援の専門性に応じた研修を修了した看護師が担う。

南九州病院（鹿児島県姶良市）
退院支援看護師（地域医療連携室看護師） 中村 貴子さん

退院支援看護師とは？

退院支援看護師は、当院のように地域医療連携室や入退院支援センターそれぞれに所属して配置されていることもあれば、大阪医療センターの退院支援部門のように専従として配置されていることもあります。どのような形であれ、患者さんにとって退院後の生活が安心して過ごせるものとなるよう、看護を通じて支援することが役割であることに変わりありません。

南九州病院の看護師養成プログラムには、他の専門職との調整の仕方や、地域のネットワークや社会サービスの活用の仕方などが組み込まれており、一定期間、病棟などでの看護経験を持ち、かつNHOの専門的な退院支援研修を終えた看護師が退院支援看護師となります。

地域医療連携室で患者さんの情報を共有する中村看護師

求められる能力は？

退院支援看護師には入院から在宅へと繋げる、さまざまな能力が必要です。その中で第一にあげられるのはコミュニケーション力でしょう。患者さんやそのご家族が気軽に相談できるよう、話しやすい環境づくりが大切です。また、私たちの努力や頑張りだけで理想の支援が実現するわけでもなく、医師や看護師をはじめ、他の専門職との連携が欠かせません。特に医療ソーシャルワーカーとは、福祉制度や社会サービスを有効に活用できるよう、きめ細やかな情報交換が必要です。役割分担を適切に行えるマネジメント力も求められます。

入院期間の中で退院に向けた準備や調整を行うためには、入院中の患者さんと接する時間が最も長い、病棟看護師との連携も重要です。病棟でも早い段階から退院を見据えた準備ができるように、病棟看護師に退院支援の大切さを伝えていくことも、私たちの重要な役割です。

患者さんとの面談の様子。「退院後も気になるので、患者さんが通院の診察に来られた際には、お話するようにしています」と話す中村看護師